

沖縄まるごと ハワイに再現

一世自慢の大パレード

【ホノルル30日】平良吉弥、阿部岳「肝揃(チムジュリ)」をテーマに「第二十一回沖縄フェスティバル」(主催・ハワイ沖縄連合会)が三十日(日本時間三十一日)、ワイキキビーチ沿いの目抜き通りやカピオラニ公園などで始まった。会場ではエイサーや古典音楽の上演、沖縄の「マチャクラー」を模した市場も再現され、にぎわった。(一面参照)



世界のウチナンチ in ハワイ

旗も鮮やか

ワイキキ市のメーンストリートを行進した各国のウチナンチユたち。太鼓やパーランクーを打ち鳴らし、国、市町村、



ワイキキの目抜き通りを車に乗ってパレードする一世の高江洲千代さん(92)＝ワイキキ・カラカウア通り

字ごとの代表を不ず色鮮やかな旗を持ち「ハイサー」「アロハ」などと沿道

の応援にこたえた。パレードの先頭車は九歳で両親とハワイに渡った高江洲千代さん(92)＝ワイキキ・カラカウア通りの子や孫、ひ孫のうち



ワイキキの目抜き通りをパレードするウチナンチユ＝ワイキキ・カラカウア通り

七人と一緒に行進。高江洲さんは「ウチナンチユの移民の歴史を知る代表として参加できてうれしい。とても興奮しています」とほほ笑んだ。芸能グループのかりゆししんか(豊見城市)のメンバーとして参加した前栗蔵亜樹さん(糸満市立西崎小六年)は「たくさんの人たちが歓迎してくれるのでとてもうれしい」と話した。

「誇りに思う」

カピオラニ公園のステージでは、エイサー団体の演舞、ハワイや県内か

●平和通り出現

沖縄フェスティバルの

ら参加した各流派の舞踊が披露された。琉球国祭り太鼓の勇壮な獅子舞と力強い太鼓でステーションと観客席が一体になった。マサオ・勢理客さん(セコ)は「ハワイで活躍するウチナンチユの姿や踊りを見ると、自分がウチナンチユであることを誇りに思う」。舞台上演では県内からも勝連町の平敷屋エイサー保存会や具志川市の天龍太鼓なども出演した。



力強く太鼓を打ち鳴らす琉球国祭り太鼓のエイサー＝ホノルル・カピオラニ公園

「平和通り」を再現したテントには、沖縄そばの乾めんや黒糖など二百種類以上の食品が並んだ。商品は沖縄から直輸入。ポランティア約八十人をまとめる責任者で、県系二世のベティ・比嘉さん(セキ)は「普段ハワイでは買えない商品ばかりで、このテントを目当てに来場する人も多い」と胸を張った。くるまを売って、「私にはアイスクリームのコーンに見える」とおどけていたのは二世のパール・ストーンミラーさん(セキ)。「米本土オレゴン州から、ポランティアとして参加した。『世界の中のウチナンチユに会えてとても楽しい』と、頬をほころばせた。